

昭和用水堰

昭和用水堰は多摩川の河口より47.8km付近に位置する農業用水堰です。九ヶ村用水取水口から引く水の量が少なくなったことがきっかけで1933年(昭和8)に現在の場所に移動し、1955年(昭和30)にはコンクリート製の堰として改築されました。多摩川と秋川の合流点に位置する昭和用水堰は、自然が数多く残る多摩川上流の用水堰で、両川から水を取り入れて昭和用水へと流し、市域の田畑を潤しています。

明治40年頃の陸軍参謀本部陸地測量部発行5万分の1地形図によると、現在昭和用水堰がある辺り(多摩川と秋川の合流点)には「滝の渡し」があったという形跡があります。元々「あばれ川」の多摩川は、洪水が絶えなかったため橋を架けてもすぐに流されていました。加えて川幅も広く橋が架けにくかったこともあり、多摩川の各所で渡しが利用されていました。



左岸から見た昭和用水堰

